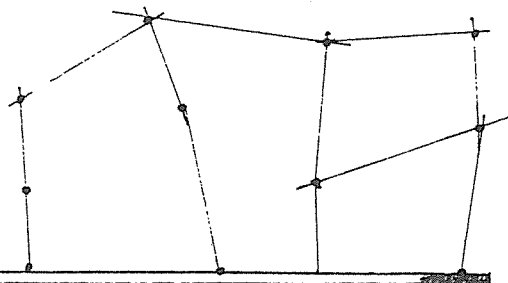


# 日本都市計画学会 関西支部だより NO. 1 1992. 3



## 日本都市計画学会関西支部設立総会開催

昨年10月3日、KDD大阪ビルにて（社）日本都市計画学会関西支部設立総会が開催され、関西支部が設立される運びとなりました。

関西支部設立にあたって

支部長 天野光三

平成3年10月3日、多数の会員諸氏のご参加のもと設立総会が開かれ、日本都市計画学会関西支部が誕生しました。それに先立つ約1年間に延べ9回、有志が集まり設立準備会を開いて支部づくりを進めて参りました。

本部の会長、理事会はもちろんですが、関西の官公・学・民間の関係諸機関には、積極的なご支援を頂き、おかげをもって支部設立にこぎつけることが出来ました。

その当日の設立総会において、皆様のご推挙により支部長の重任を仰せつかりました。伝統と名誉ある日本都市計画学会の、最初の関西支部長として責任の重さを痛感しております。支部会員の皆様のご鞭撻と、支部会員諸氏のご協力により重任を果たして参りたいと存じております。

さて今までの本部活動と違って、支部活動の特徴は次のようではないかと思えます。

1. それぞれの地域で『足を地につけた活動』をしなければならぬことと思えます。つまり都市計画に関連する実際の行政のニーズ、民間企業のニーズを実現するのに大学人が協力し、それを通してお互いに課題の所在を知り、問題意識を深め、知識と方法論をより高めていく。支部だからこそ出来ることも多いと思えます。とくに、都市計画に関する研究活動・情報の交換、都市計画関係者の人的交流を図ることが大切なのではないのでしょうか。
2. 関西では府県・市町村の自治体、都市計画関連の多くの民間企業の会員諸氏と共にこれからの関西の町づくりのために、官学産が一体となって取り組んで行かねばならないテーマが山積していると見えます。21世紀に向けて、単に都市計画の抽象論やアカデミックな理論だけに止まっているのではなく、足を地につけた現実的なあゆみを会員の皆様と共に進めて参りたいと思えます。
3. 関西の特徴として、京都・大阪・兵庫・滋賀・奈良・和歌山と、いずれも歴史・自然・文化の個性溢れた都市群が『すばる星』のように身近に集まっています。一見ばらばらに見えても不思議にある秩序を保ちつつ、多様性の下にお互いに自主

性を尊重している。

こういう関西では、特に支部運営にはいろいろのバランスを配慮せねばなりません。専門分野では土木・建築・造園があり、職場では官・学・民があります。ここまでなら普通ですが関西では特に京・阪・神と滋賀・奈良・和歌山をどうからませるかという配慮がいります。

4. これらを念頭に置きながらこれから徐々に『都市計画のフィールド』の中でお互いの人的交流を作り上げて行きたいと考えています。

以上に述べたような面で、新しく生まれた関西支部をお役にたつものにして行きたいと思っています。そのためにこれから支部としてどんな活動・事業をしていけばよいか、これから会員の皆様より積極的なご意見を戴いて進めていく所存であります。

支部はやっと誕生したばかりです。これからきちんとした組織・行事企画を組み立ててルールに載せて行かねばなりません。

支部設立にあたって府県・市町村、各種公的機関、民間企業にご支援を戴き、快く発起人をお引き受け戴きました。また多くの自治体やシンクタンク・企業からは早々と賛助会員のお申し出を戴きました。このように支部設立に到るまでにお世話になった多くの皆様に心からお礼を申し上げるとともに、これからの支部活動を通して会員の皆様のご期待に添えるように努力したいと考えています。

支部会員の皆様にも、どうかよろしくご協力を賜りますようお願い致しましてご挨拶とします。



関西支部設立総会風景

## 関西支部設立までの経緯

社団法人日本都市計画学会では、これまでに、関西地域の会員有志によって「都市計画セミナー」の開催や、年1回の会誌「都市計画」の編集などを行ってきましたが、関西地域での活動をより一層活発化し、会員にとってさらに身近で魅力ある学会とするために、支部を設立してはどうかとの考えから、1990年末以来、会員有志があい集い、協議を重ね準備を進めてきました。そして、1991年12月17日天野光三会員、紙野桂人会員らの呼びかけにより、「日本都市計画学会関西支部設立準備委員会」が設けられました。支部設立の準備はこの「準備委員会」を中心に行われ、支部設立の意義と活動内容の具体化、運営資金の確保と事務局体制を確立することなどについて検討されてきました。

その結果、本部との連携のもと、1991年度の「都市計画セミナー」を10月に関西で開催し、同時に「日本都市計画学会関西支部設立総会」を持つこととなりました。さらに「準備委員会」では、支部規定案の作成や、「支部設立総会」及び「都市計画セミナー」の準備、支部活動の活発な展開を図るための各種委員会設置の検討、支部運営資金に関連して賛助会員の募集を行うなど多くの作業を積極的に進め、1991年10月3日(木)にKDD大阪ビルにて「日

本都市計画学会関西支部設立総会」を開催する運びとなりました。

また、懸案であった支部事務局についても、財団法人大阪市都市工学情報センター内に設置していただけたとの内諾を得ることができ、支部設立に必要な用件をほぼ整えることができました。

こうして、10月3日、293名(委任状246名を含む)の参加を得て設立総会が開催されました。総会では、支部設立の決議、規程案の承認、役員を選出等支部運営に必要な事項が議決され、これを受けて設立の申請を学会本部に提出、10月22日の理事会で関西支部の設立が正式に承認されるに至りました。選出された支部役員は次の通りです。

支部長	天野 光三(京都大学)
副支部長	紙野 桂人(大阪大学)
	仙石 泰輔(大阪市)
	高橋 充夫(関西情報センター)
幹事	森 康男(大阪大学)
	鳴海 邦碩(大阪大学)
	西村 昂(大阪市立大学)
	枝村 俊郎(神戸大学)
監事	竹澤 忠義(京都市)
	頼 千元(大阪ガス)

## [ 寄 稿 ] 関 西 支 部 に 期 待 す る

民・官・学の交流拡大に期待する

大阪市助役 磯村隆文

21世紀を目前に控え、関西をとりまく内外の状況は大きく変化しております。国際化・情報化の急速な進展のなか、多極分散型国土形成に向け、関西地区の果たす役割が一層求められている今日、日本都市計画学会関西支部が設立されましたことは、誠に心強い限りであり、心よりお祝いを申し上げます。

現在、関西におきましては、日本初の24時間空港を目指し、レンゾ・ピアノ氏設計の旅客ターミナルビルに見られるような国際的な協力のもと、着々と工事が進んでおります関西国際空港や、産・官・学の参加により、高度な文化・学術・研究機能の中核となる情報発信基地としての関西学術研究都市、また、ウォーターフロントを生かした世界都市関西形成のための大阪湾ベイエリア開発などといった、さまざまな大規模プロジェクトが進行しており、大きな飛躍が期待されている中、こうした大きな変化と多様な状況に対応したまちづくりが求められています。

幸い、関西には自由・進取の気風、旺盛な企業家精神によって、豊かな文化的風土、質の高い都市基盤を築き、常に我が国の社会・経済の新たな発展を先導する重要な役割を果たしてきたという歴史があります。また、これまで、民・官・学が協力し、それぞれの都市がユニークなまちづくりを進めながら

圏域全体として調和のとれた発展に向け、その取り組みを実践してきた伝統があります。

こうした歴史と伝統の上に立ち、このたび設立されました日本都市計画学会関西支部が広く都市計画関係の民・官・学の人的交流・知的交流により、関西地区のこれからのまちづくりに大きく貢献されますことを心から御期待申し上げます。

若手、市民、留学生の交流の場に

都市・計画・設計研究所 水谷頼介

また1つ機構が出来て、みんなの忙しさだけがまた増えるということになってしまったのでは、お互いにつまらないし無駄なことだ。という想いから、3つのチャンスが生まれることを希望してみた。

まず第一は、若手交流のきっかけになること。多くの新しい学会設立の場合などにみられることだが、設立当初の同人は、旧制高校同窓とか同じ専門分野では、はしりの仲間だとか恩師との関わりで、旧知の仲間意識からスタートする。しかし、年代を経るとこの仲間は引退してしまい、その後の世代は顔見知りであるだけであまりおたがいが親しくなくて次の話題が出にくく発足当初の意気込みにもかかわらず尻すぼみになるケースが多い。役所、会社に限らず学校もタテ割りで、若き研究者である現在の大学院や学生は自分の研究室の範囲内だけしか同学の志を知らなくて、狭い気持ちの中で勉強してい

て先生や先輩の顔色だけをうかがっている。まずこういう状況を脱さねば、学会が学会として健全に機能しないで、本数だけを稼ぐ論文発表の場の提供にとどまってしまう。

第二は、市民との交流の場として育ててほしいこと。産官学といえばフェアな体制であるかのようにふるまっているが、いずれも供給者（体制）側であって同じ穴の貉、消費者（利用）側の立場が抜けている。本気で民主主義・自由体制の町づくりをすすめていくつもりなら、市民の参加が重要である。産も官も、お商売と選挙以外では、市民を避けたがるし、まだしっかりとつき合っていく勇氣と努力に

とぼしい。学会が、当面、市民と産官の間に立つことがいま求められているのではないか。この体験を通じて、市民の気持ちや期待に答えることができる、また逆にこういうことはしたら駄目なんだという研究テーマも発意されてくるに違いない。

第三は、国際交流。支部学会として地域密着で、せめて留学生交流の場として機能してほしい。留学生も、日本のタテ割り学校体制に組み込まれてしまっている。年度始めと末ぐらいに、見学会・研究交換会・懇親会を、夏には、それに合宿ぐらい加えて、年三回ぐらい各学校が順番に主催して定例化しその時々趣向をこらして開けたらいいのに。

## 委 員 会 報 告

### 総務委員会

当委員会は、およそ月1回の割合で委員会を開き、関西支部規程の細則、事務分担などについて検討し、順次幹事会に諮って細則等を制定するなど、当面、支部の活動基盤の整備をすることに努力しています。

すでに、支部の執行部である各種委員会の設置を定める「委員会設置に関する細則」を制定施行し、今年度内には、受託研究や会員の研究活動を行う場である研究会の設置を定める「研究会の設置に関する細則」を制定し、施行できるようにする予定です。

さらに、1992年度の総会が来る5月13日に開催されることが内定していますので、その準備を始めています。当日は総会と併せて、企画委員会の協力を得て有意義な催しを企画しておりますので、ご期待下さい。

現在の総務委員会のメンバーは、赤崎弘平（大阪大）、榊原和彦（大阪産大）、塚口博司（京大）、寺内信（大阪工大）、森康男（大阪大・委員長）の5名です。（文責：森 康男）

### 会員・会計委員会

本支部の会員数は、下表に示すとおり、正会員等

日本都市計画学会関西支部会員数

	正 会 員	外国会員	学生会員	賛助会員	その他	合 計
大阪府	360	7	11	48	0	426
兵庫県	96	1	3	10	0	110
京都府	92	5	12	6	2	117
滋賀県	10	0	0	2	0	12
奈良県	13	0	0	0	0	13
和歌山県	6	0	0	1	0	7
その他	75	4	7	18	0	104
合 計	652	17	33	85	2	789

注 1) 勤務地別の会員数を示す。

2) 各府県別欄は1992年1月21日現在の数を、府県別その他の欄および合計欄には1月22日理事会提出予定分を含めた数を示す。

3) 会員種別その他の内訳は、名誉会員（1名）と会友（1名）。

4) 府県種別その他欄には、勤務地が関西以外（現住所が関西）もしくは不明の分と注2)の予定分を合わせた数を示す。

の個人会員に賛助会員を含めておよそ800名に及び、学会全体に占める割合も20%に達しようとしている。これらの会員によって本支部は支えられており、今後とも支部活動の活性化には会員規模の充実が不可欠といえる。このような会員にかかわる事務を行うのが、会員・会計委員会であるが、改めて本委員会の業務内容を要約すると次の通りである。

「会員・会計委員会は、支部会員とりわけ支部財政基盤を支える賛助会員の募集とその管理にかかわる業務、ならびに支部予算案の作成と執行にかかわる事務を担当し、さらに、これら業務に関する事項について本部との調整・連絡を行う。また、会員へのサービスあるいは会計上の立場から、他の委員会に対して業務の依頼や勧告を行うこともある。」

現在、西村 昂（大阪市立大・委員長）、金井萬造（地域計画建築研究所）、日野泰雄（大阪市大）の3名で、①会員募集のシステム化、②会員データベースの作成（本部とも協議中）、③1991年度補正予算の作成、④経常的年度（当面1992年度）における予算と支部活動内容の検討などに鋭意取り組んでいるが、今後はさらに検討すべき事項が山積みであり、1992年度には行政機関を中心に数名の委員の追加をお願いすべく検討中である。会員諸氏のご協力をお願いし、本報告の結びとしたい。（文責：日野泰雄）

## 編集・広報委員会

編集・広報委員会の活動としては、支部だよりをとりあえず年2回発行することとなりました。その第1号がご覧の通りのものです。支部の活動その他、情報伝達、交換のためにできるだけひんぱんに発行するのが理想ですが、発行の手間や予算の制約から、当面この程度となりました。今後はさらにできるだけ充実していくよう努力したいと考えております。現在の委員のメンバーは、枝村俊郎（神戸大）、福島徹（神戸大）、千葉桂司（都市・住宅整備公団）、新田保次（大阪大）、久隆浩（大阪大）、小谷通泰（神戸商船大）の6名です。（文責：枝村俊郎）

## 企画・事業委員会

### 1. 活動方針

まちづくり、都市計画に関する情報交流、新しい課題に関する意見交換等を目的として、「都市計画研究・交流会」や「都市計画シンポジウム」を開催していきます。

「都市計画研究・交流会」は官・民・学から参加を得て、都市計画の先端的な課題について意見交換、情報交換をしようとするものです。40名程度の参加を得て、隔月で開催していく予定です。

「都市計画シンポジウム」は、まちづくり、都市計画に関する情報の交流・普及を目的として、一年に1ないし2回開催する予定です。取り上げるべきテーマ等ご提案がありましたら、事務局まで申し出て下さい。参考にさせていただきます。また、開催案内については『都市計画』誌上で予告する予定です。是非お目通し下さい。

### 事務局より — 関西支部事務局の舞台裏

関西支部の会員数は1991年末で766名（内賛助会員67）、全国会員4417名の17%を占めています。支部としては中部地区の約2倍、九州地区の約3倍の規模となっています。そのため、事務量も多く、他地区の支部のように大学に事務局を置くことが困難な事情があります。そこで、（財）大阪市都市工学情報センター（CITE）が事務受託（会議室の準備、支部事務機、ロッカー設置、電話、ファックスの代行、事務の支援）をして、支部総会の設立事務支援ならびに、設立後の事務支援をさせていただいております。支部設立前後の多忙な事務が、CITEが主催するCITEさろんの発足準備と（財）地球環境センター設立準備の事務が重なり十分な準備ができないままで、支部設立を迎えましたが、準備委員会の皆様方のご配慮と、CITEの職員および都市計画学会関西セミナーのアルバイトとして応援をいただいていた袴田清子さんの情熱的な仕事に対する責任感に助けられ、きわどい低空飛行ながら、なんとか、切り抜けることができました。現在事務局にはアルバイトとして真鍋香織さんに週1回、多忙時2日の事務をこなしてもらっていますが、設立当初でもあり、スムーズに事が運んでいるわけではありません。従って、幹事会、各委員会ならびに会員の皆様には、なお、いろいろとご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、このような事務局の状況をご理解いただき、よろしくご協力をお願い致します。（関西支部事務局：池田順一）

### 編集後記

支部が設立されて半年、なるべく早く支部会員の皆様に支部設立の概要やその後の委員会をはじめとする活動状況をご報告すべく準備を進めてきましたが、やっとここに支部だより第1号を発行することができました。表紙のデザインは枝村委員長の仕事でネットワーク網を模したものです。いかがでしょうか。第2号以降より内容を高めていきたいと思しますので、是非御要望、御意見お寄せ下さい（F）。

## 2. 活動内容

### 1991年度

1991年度の催しとして、第1回都市計画研究・交流会が下記の内容で開催されました。

テーマ：ウォーターフロント開発—課題と提案

日時：平成4年2月19日（水）

発題者：村田武一郎（地域計画研究所）

前阪進二（神戸市開発局）

津本 清（和歌山県企画部）

橋詰 武（大阪湾ベイエリア開発推進協）

司会：鳴海邦碩（大阪大学）

### 1992年度（予定）

#### 1) 研究・交流会

第2回（7月）：福祉のまちづくり；高齢者と都市環境

第3回（10月）：都市の立体的利用；道路と建物の複合等

第4回（12月）：都市基盤；施設と景観

第5回（2月）：都市と自然；農地問題

調整区域における開発問題等

#### 2) 都市計画シンポジウム（5月）

都市政策と駐車問題

## 3. 委員会の構成

小林正美（京都大）、酒井充（大阪府）、田中直人（神戸市）、中川大（京都大）、鳴海邦碩（大阪大・委員長）、平岡博（大阪市）、増田昇（大阪府大）、三星昭宏（近畿大）、三輪康一（神戸大）

（文責：鳴海邦碩）

関西支部だより 第1号 平成4年3月31日発行  
編集発行 社団法人 日本都市計画学会関西支部  
大阪市中央区徳井町2-3-2  
住友生命大商東ビル2F  
財団法人大阪市都市工学情報センター内  
(TEL: 06-942-7711, FAX: 06-942-7722)